

事務事業評価シート

評価対象年度 平成 23 年度

【事務事業の基本的事項】

事務事業名	教育旅行支援事業									
担当課係名	農山村体験デザイン室 課	-	係	作成者	高倉正人					
総合計画での位置づけ	施策の大綱	歴史と自然が織り成す交流拠点のまち				総合計画のページ 30				
	基本計画	観光誘客体制の整備と観光資源の掘り起こし								
	主要施策	観光客受入態勢の整備								
予算費目	一般	会計	7 款	商工費	1 項	商工費	3 目	観光費		
事業期間	平成	年度	～	平成	年度	新規／継続の区分		継続		
性質区分	<input checked="" type="checkbox"/>	市民サービス	<input type="checkbox"/>	公共事業	<input type="checkbox"/>	施設維持管理	<input type="checkbox"/>	補助金	<input type="checkbox"/>	内部管理
根拠法令等	なし									
事務区分	<input checked="" type="checkbox"/>	自治事務	<input type="checkbox"/>	法定受託事務						
運営方法	<input type="checkbox"/>	直営	<input checked="" type="checkbox"/>	直営（一部民間委託）	<input type="checkbox"/>	民間委託（全部）	<input type="checkbox"/>	補助		

【事務事業の実施内容】

事業の対象 （誰のため・何を）	児童、生徒、学生（主に中学生）
事業の目的・意図 （どういう状態にしたいのか）	教育旅行の年間受入学校数を増加させる。
事業の内容 （どのような業務、活動を行うのか）	宮城県、北海道をはじめとする各地教育旅行の誘致PR活動及び受入態勢の整備。

【事務事業の推移】

	項 目		単位	23年度実績		
	効果	活動指標	小・中学校訪問数	目標	校	200
実績				校	209	
達成度				%	104.5%	
成果指標		教育旅行受入れ学校数	目標	校	100	
			実績	校	113	
			達成度	%	113.0%	
投下コスト	項 目		総事業費	23年度決算額(千円)		
	事業費（人件費を除く）(A)		—	1,308		
	人 件 費 (B)		—	10,599		
	職 員 数		—	1.25		
	職員平均人件費		—	8,479		
	(A) + (B) 投下コスト		—	11,907		
	財源内訳	国庫支出金		—	0	
		県支出金		—	0	
		地方債		—	0	
		その他		—	0	
		一般財源		—	11,907	
単位コスト	活動指標1単位当たりコスト(円)		—	56,971		
	市民1人当たりのコスト(円)		—	400		

【事務事業の今までの成果】

宮城県（仙台市及び郊外）の小中学校並びに北海道（札幌市及び道南地区）の中学校を対象に誘致活動を展開している。また、札幌市内の中学校を対象とする秋田県教育旅行誘致説明会にも参加し、仙北市の魅力についてプレゼンテーション、個別相談を実施した。このような地道に足を運ぶ活動により、体験学習を含む教育旅行のニーズが高まってきている。

【事務事業を取巻く環境】

国・県・他自治体の動向	北海道地区の教育旅行に関しては、秋田県観光連盟、男鹿市観光協会、十和田八幡平観光物産協会と連携を図りながら、誘致キャラバンを実施している。
事業に対する市民の意見 (事業に対する期待、要望、苦情等)	毎年春先になると教育旅行のシーズン到来というイメージが定着し、子供達が農作業体験や伝統工芸体験で賑わう姿が各地で見受けられる。仙北市内は活気づき、受入農家や職人の方々にとっても所得向上の一助になっている。

【一次評価】

判定	事業の方向性	判定に至った理由
B 1	A 現状のまま継続（実施）	H23年度から教育旅行の担当窓口が一本化され、旅行会社や農家民宿との連絡調整がスムーズに図られるようになった。また、誘致活動の成果も上がってきており、体験申込などの問い合わせが多く寄せられるようになった。あとは、それに応えるだけの受入側の整備が少し必要と判断した。
	B 1 見直しの上で継続（拡大）	
	B 2 見直しの上で継続（手段改善等）	
	B 3 見直しの上で継続（縮小）	
	C 1 大幅な見直しの上で継続（拡大）	
	C 2 大幅な見直しの上で継続（手段改善等）	
	C 3 大幅な見直しの上で継続（縮小）	
	D 休止・廃止（統合を含む）を検討する事業	
E 終了（完成及び目的を達成し終了した事業）		

※一次評価の判定がB～Dのときは、下記に必ず記入すること。

【具体的な今後の取組内容（改善の方向性、対象、意図、手段等について記載すること。）

これまでの誘致活動については、継続的に進める必要があるとして、年々仙北市への教育旅行の需要が高まってきており、それに見合うだけのサービスが提供できているか、微妙に感じるときもある。例えば、体験メニューを増やすとか農家民宿の増加（新規開業）、受入農家の拡大、職人の確保など、万全の体制を整え、より多くのニーズに応えられるように働きかけていきたい。

【二次評価】

判定	判定に至った理由
B 1	窓口が一本化され、今後も需要の増加が見込まれると考えます。今後は更に観光資源をいかし、野外活動の受け入れ体制や、農家民宿を利用した様々な体験についても強化が求められていると考えます。

